

## 銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



## 1月の銅の概況及び2月の見通し (6)

## ■見通し

## ◆自動車販売台数

国内向け販売は、1月の調整局面を経て3月決算を見据えた仕込み段階として、横ばい〜小幅マイナス圏で推移。需要の底割れは回避。

軽自動車や低価格帯のコンパクト車、実用車は、引き続き堅調。価格上昇局面では「値ごろ感」「維持費重視」の層が中心に動きやすい。

## ◆自動車生産台数

国内工場は、稼働日数の少なさを考慮しつつ、安定稼働を維持。在庫調整を優先し、大幅な増減産は回避。

輸出向けは数量を抑えつつ、採算重視の品目に限定。国内向け(軽・HV・実用車)中心の生産構成が続く。

## ◆伸銅品生産

年末にかけた生産増の反動は限定的にとどまり、自動車・半導体向け需要は堅調を維持。中国家電やデジタル機器向けも底堅く推移する一方、建築関連は依然弱含む見通し。総合すると、生産量は5万6,000〜5万7,000トン前後と、前年同月比で増勢を維持すると予測。



非鉄金属全般

## 岡田商店

代表 岡田兼典

580-0046

大阪府松原市三宅中4-20-14

電話：072 (289) 8936 (代)

ファクス：072 (289) 8937

## ◆電線

2026年2月の電線生産は、在庫調整が最終局面に入りつつあるものの、建設・民需の回復はなお鈍く、横ばい圏での推移を見込む。

出荷量は4万8,000トン前後と低水準を維持し、前年比は概ねゼロ近辺。電力・インフラ向けが下支えとなり、減少トレンドは収束方向へ向かう局面と評価する。

## ■スクラップ景況予想

2026年2月の国内銅スクラップ需給は、回収業の立場から見ると寒波や年度末調整の影響で発生量は伸び悩み気味。一方、電線・設備更新向けの引き合いは底堅く、精錬・加工筋の買い意欲も衰えていない。

結果として市中原料は集まりにくく、需給は引き締まった状態が続く見通し。価格は高値圏で推移し、安定調達には回収体制の強化が欠かせない局面。

## ■LME・為替予想

## ◆LME予想

2026年2月のLME銅価格は、1トン=12,900〜14,000ドルの高値圏で推移すると予測する。米欧の金融緩和が本格局面に入り、実質金利の低下とドル安進行がコモディティ市場への資金流入を加速させる。

特に年初は年金・ヘッジファンドによる戦略的ロング構築が集中し、銅は電化・AI投資の象徴的資産として選好されやすい。

加えて、鉱山開発の遅れや精錬制約による供給不足が顕在化し、金融需給と実需需給が同時に逼迫することで、過去のレンジを一段切り上げた相場形成が現実味を帯びる。

## ◆為替予想：155円〜160円

2026年2月のドル円は155〜160円レンジを想定する。最大の焦点は米金利動向で、FRBはインフレの粘着性を背景に利下げを急がず、長期金利は高止まりしやすい。一方、日本は金融正常化が緩慢で日米金利差は依然大きく、基調はドル高・円安。

ただし、過度な円安局面では日米協調介入観測が浮上し、上値は限定されやすい。米金利の高止まりが続く限り、押し目ではドル買い優勢とみる。

銅建値に関しては、2070円〜2310円程度と予測する。

(おわり)